



鶏けいめいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「ついには、わたしたちは皆……成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」

聖書(エフェソ書4章13節)

牧師 河合裕志

「成熟した人間」とはどんな人間を言うのだろう。普通には「精神・肉体が発達して独立した営みが可能な状態に達した人間」を指す。子供がおれば親はそうした人間になるように願いつつ養育することになる。心身共に健やかに成長し、やがて精神的にも経済的にも独立した者となる、これが親の望み、そして成熟した人間というものに違いない。

この方向はパウロも同じか。同じだろうけれどそれだけではないように思われる。そこにプラスアルファがある。それは「キリストの満ちあふれた豊かさ」といったものを身につけた人間と言うこと。それは何を指す? パウロは前にこう述べていた。「キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さを理解し……」(エフェソ3・18)。これではないか。キリストの愛は広く全ての人を包む。どんな罪人も招き寄せる。分け隔てのない愛。制限を知らない愛。赦しの愛……。

こうした愛を身につけた人間が本当は成熟している、ということになるのだろう。五体満足、経済的に自立していてももしそこにキリストが持っているような愛に欠けているならば、その人は成熟さに欠けるかな、ということになる。

キリストは愛が満ちあふれているような存在。愛の人格者。そんな人間に私になる。パウロさん、あなたはそんな人になっている? 十分に成熟した者になっている? こう彼に問うなら次のように答えるかも。「わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕えられているからです」(フィリピ書3・12)。

「既に完全な者となっているわけではない」、この思い、謙遜な思いが様々な場面におけるパウロの内にあつた。キリストの持つ広い、長い、高い、深い愛を自らも持つに至る、これは私の願望。現段階でそこに到達した訳ではない。しかし自分は「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長する」望みを捨てない、皆さんも捨てないで、とパウロは言う。

このパウロの強い願いは彼がキリストの満ちあふれる愛を受けたことに基づいている。罪人の頭であるような自分のためにキリストは身を捨ててまで愛してくれた。この愛に促され励まされて、ということ。そして少しでも愛の人に。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時